



# 矢川だより

特集

みんなの滝乃川学園



No.129

2022.12. Winter



# 矢川 の ひと



石井亮一・筆子記念館館長  
米川 覚 (よねかわ・さとる)

滝乃川学園の歴史の語り部。1981年に滝乃川学園に入職。2003年に常務理事と総合施設長になり、2009年からは常務理事と記念館館長を兼務。津曲祐次氏の著書『鳩が飛び立つ日「石井筆子」読本』などに編集協力・写真提供で携わる。ロックバンド「Easy Heads」のギター&ボーカル。

## 記念館に行けば会える 歴史の語り部

ここで働きはじめたのは、音楽活動に熱中していた頃。他の知的障害児福祉施設の園長だった父の勧めがきっかけでした。大学に入るまでは父が勤める施設の社宅で生活していたので、知的障害児者が身近にいる暮らしは、自分にとって日常でもありました。

知的障害のことを深く知るにつれ、仕事がどんどん面白くなり、45歳で総合施設長に。「利用者さんたちが施設の外に出て、地域に溶け込む」福祉のあり方を目指して奔走しました。

現場で仕事をしていた頃は、滝乃川学園の歴史のことはほとんど知りませんでしたね。はじめてその一端に触れたのは、「滝乃川学園百二十年史」の発行責任者を任されたから。執筆・監修をお願いした津曲裕次先生の原稿を読んで出典を調べたりするうちに、知らなかった歴史、そこに宿る人の息遣いに触れ、知識が増えていくのが楽しくなりました。結果として百二十年史は1800ページの大作に、最終章は自分で書き上げていました。

歴史やそこに生きた人の思いは、語り部がいなければ知られることはありません。知的障害は福祉の中でも小さな分野だからこそ、歴史の物語からこの学園に興味を持ってもらえたら嬉しいです。

学園の正門に面した  
小さな路地に  
毎年恒例  
ささやかな光が灯りました  
ほんの小さな灯し火で  
心がぽっとなる  
クリスマスがやってきます  
学園のお便り「矢川だより」  
今号は、130周年記念イベント  
「みんなの滝乃川学園」  
を振り返ってみます



森のアトリエ



トークイベント「米川館長の語る滝乃川学園」



滝乃川学園の歴史を紹介するパネル展示



特集

ピアニスト・浅野未麗さんによる天使のピアノミニコンサート

# みんなの滝乃川学園

まだ知的障害者が社会的排除の対象であった時代、「滝乃川学園」創始者の石井亮一・筆子夫妻は「その子に応じた教育をすればその子なりに発達する」と確信し、手探りで知的障害児教育にあたります。そして2021年12月、「滝乃川学園」は創立130周年を迎えました。

その歴史や今を伝える展示イベント「創立130周年記念～みんなの滝乃川学園～」が、2022年9月14日から20日までJR国立駅南口の「旧国立駅舎」で行われました。展示や映像、ミニライブラリー、米川館長のトークイベントなど、多くの人にご来場いただいたイベントの内容を振り返ります！

## 滝乃川学園の歴史を伝える

現在は矢川にある滝乃川学園が、滝野川から巢鴨へ移転したのが1928年。イベント会場となった旧国立駅舎はほぼ同時期である1926年に開業し、現在は「まちの魅力発信拠点」として親しまれています。

会期中の17日から19日までの3日間、全9回実施された「石井亮一・筆子記念館」米川館長のトークイベントでは、創始者・石井亮一が学園創立にかけた想いと、障害児を抱えて未亡人となり、社会的地位を全て捨てて亮一に嫁いだ筆子夫人の人生を振り返りながら、毎回異なる切り口で学園の歴史が語られました。「知らなかった歴史を知った」「感動した」という声を多数いただきました。

## 天使のピアノの音色が包む

18日には、ピアニスト・浅野未麗さんによるミニコンサートが、各回30分・全3公演行われました。演奏で使用された「天使のピアノ」

あおいとり保育園の園長先生に聞く

## 矢川あたりの 鳥たち 虫たち

滝乃川学園のご近所、「国立あおいとり保育園」の園長・佐伯元行さんは、幼い頃から生き物博士！ そんな佐伯園長に、滝乃川学園界隈でその季節に見られる鳥や虫を教えてください。



その3  
ジヨウビタキ



写真・文：佐伯元行

国立市には例年11月下旬頃冬鳥としてやってくる体長14cmくらいの小鳥です。オスの喉や背は黒で腹はオレンジに対し、メスの背は灰褐色をしています。ヒッヒッと鳴き、尾羽を上下させ、虫や木の実を食べます。滝乃川周辺の家の庭や畑でよく見られ、人への警戒心が薄い一方、縄張りを持ち、鏡に映る自分をも攻撃する一面もあります。



滝乃川学園ガーデンプロジェクトの展示



天使のピアノの調律と解説

は滝乃川学園に現存する「日本最古のアップライトピアノ」であり、国立市登録有形文化財でもあります。この日は台風が直撃し、時折雷鳴がとどろく中、本当に多くの方に見守っていただきながら、美しいピアノの音色が駅舎を包み続けました。

思わぬ反響があったのが、ピアノの調律の時間。特にイベントとして設定していたわけではなかったものの、珍しい光景に興味を持った方が次々に足を止め、調律師による解説に耳を傾けていました。

### ガーデンプロジェクトの紹介

展示室では、地域の有志の方々と学園の職員が取り組む「滝乃川学園ガーデンプロジェクト」を紹介。四季折々のガーデンの写真や動画が流れ、「学園に足を運んでみたくなった」と言っていたことができました。

様々な機会を通じ、今後も滝乃川学園の魅力を発信していきます。

# 矢川のまちめぐり

自然と農、歴史と文化、人々の暮らしがゆるやかに流れる矢川エリアを中心に、国立のまちをめぐりたくなるスポットを紹介します。

今回のテーマ

12月の  
国立を巡る

## 旧国立駅舎

JR国立駅前にある、赤い大きな三角屋根が特徴のこの建物は、JR中央線の高架化に伴い、駅としての機能を終えて解体・部材保存され、新たに「まちの魅力発信拠点」として再築されました。駅舎の歴史紹介、国立の観光や暮らしの情報発信、ゆかりの商品やお土産の販売などに加え、待ち合わせの場としても開放され、様々な面で国立の玄関口となっています。

◆ 国立市東1-1-69



## 白十字

大学通り沿いに1955年に創業した老舗洋菓子店。音楽をモチーフにした可愛らしいケーキや焼き菓子をはじめ、国立土産にぴったりな洋菓子が並びます。滝乃川学園でも毎年、オリジナルの「天使のクッキー」を白十字さんに製造していただいています。現在は建替えの為、ブラコン通りの仮店舗で営業中。

◆ 国立市中1-9-43



## 大学通り

JR国立駅前の円形ロータリーからまっすぐ南に伸びる、一橋大学に面した大通り。車道の左右それぞれに自転车道、歩道があり、日々ゆったりと散歩する人々の姿が見られます。春はサクラ、秋から冬にかけてはイチョウにそれぞれ彩られ、国立市内外から多くの人が訪れ、四季を楽しんでいます。

◆ 国立市東2



## Pâtisserie cafe VIVAVANT

バリスタとパティシエが本格的なコーヒーとスイーツを提供するさくら通り沿いのカフェ。広々とした店内ではコーヒーを使用した多種類のドリンクやスイーツ、お食事も楽しめます。どんな人にも居心地のいいサードプレイスのようなお店です。12時間漬け込んだふわとろリッチなフレンチトーストが人気！

◆ 国立市富士見台3-5-14

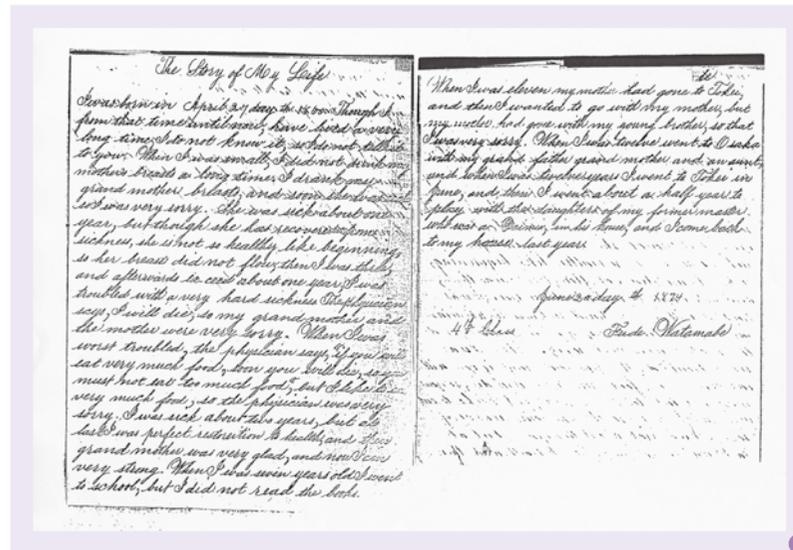




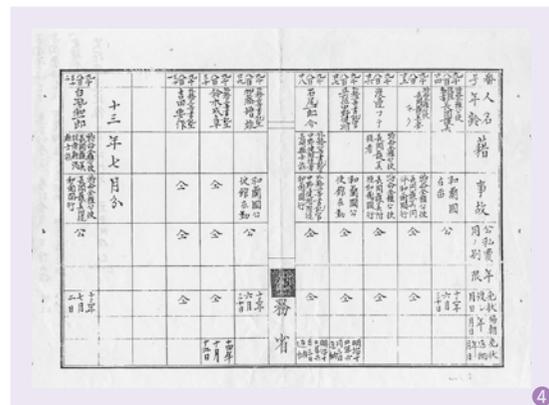
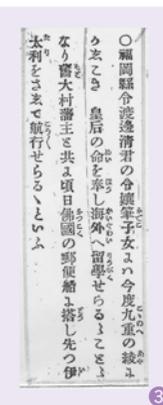
# 米川館長の 歴史さかのぼり

石井亮一・筆子記念館  
館長 米川 寛

このコラムは滝乃川学園の深い歴史に魅せられ、2009年に記念館館長になった米川さんの歴史をさかのぼるコラムである。



① The Story of My Life ② グラント将軍 ③ 筆子新聞事例 ④ 長岡一行に発行された公用旅券の写し



## その4 上京後の筆子

前号にて、筆子の上京、「東京女学校」入学、クララ・ホイットニーの英語・バイブル塾に触れたが、今回はもう少し詳しく上京後の筆子について述べてみよう。

1872（明治5）年、11歳で上京し、翌年に「東京女学校」に入学。写真①は、1874（明治7）年に女学校の英語の授業で筆子が書いた「The Story of My Life」である。入学して1年ほどでこのようなきれいな字体で英文を書いていたことに驚かされる。

1879（明治12）年、筆子は福岡県令（知事）であった父清と共に、長崎のアメリカ領事館に招かれ、来日したグラント前アメリカ大統領と懇談する。グラント前大統領は「遙々と遠い日本に来て、貴女のような若い方と英語で話すことが出来てとても嬉しい」と語り、サイン入りの写真②を贈った。既に不自由なく英語で会話が出来ていたことが分かる。

1880（明治13）年、筆子はオランダ全権公使長岡護美（旧熊本藩主・細川斉護の六男）の従者としてヨーロッパに渡り、フランス語、オランダ語を学ぶ。長岡護美はベルギー、デンマークの公使も兼ねておりヨーロッパ全体の外交を束ねていたため、筆子もオランダだけではなく、フランスをはじめとしたヨーロッパの文化を吸収したと思われる。筆子の現地での様子は分からないが、後年、パリでルーブル美術館を訪れ、鑑賞した西洋絵画（当時はマネ、モネら印象派が活躍していた）のすばらしさを述べ、また「欧州に在りし時和服を着用して宴会に臨みたるに頗る賓主の賞賛を蒙れり」と回顧している。

ちなみに長岡夫人知久子は、旧主大村家の娘で、筆子は上京後一時大村家に寄寓しており、共に過ごした仲である。写真③は当時「東京曙新聞」に載った筆子のヨーロッパ留学の記事で、「皇后の命を奉し」とある。大村藩主とあるのは誤りで前述のように長岡護美である。

## チャプレンになる、ということ

チャプレン 高瀬祐二

2022年4月より、チャプレンに就任しました高瀬祐二と申します。昨年3月滝乃川学園を定年退職し、現在は常務理事として当園に週二日勤務しています。また、門前仲町にありません社会福祉法人聖救主福祉会に業務執行理事として週二日勤務しています。私は滝乃川学園に就職する以前は、日本聖公会東京教区で働いていました。35歳の時に出向という形で当園に入職し現在にいたります。

通常業務が忙しく、教会の仕事は日曜の礼拝奉仕以外はお断りしていましたが、今回高橋宏幸主教からは是非ということでチャプレンをお受けすることになりました。いちおう世田谷の聖公会神学院を卒業しましたが、本人の努力が足りず。聖職にはならずにあります。

前述した聖救主福祉会は、江東区の聖救主教会から派生した社会福祉事業です。司祭鈴木勉氏により始められました。残念ながら計画中に病気のため1978年に逝去されましたが、事業は継続しています。滝乃川学園では亡くなるまで長く理事としてかかわっていたきました。聖救主教会は、昔はまわりを材木問屋に囲まれ、そこで働く青少年を対象に、医療、福祉の活動を行ってきました。現在ではまこと地域センターとして、介護、保育園、幼稚園等事業を行っています。

今ではそのかわりは薄くなっていますが、聖公会東京教区や府中聖マルコ教会に、その後、聖パトリック教会に当園を支えていただきました。福祉や教育の公的制度が充実するにともない、これら教育や福祉の働きは経済的に自立していき、今に至っています。

創立者・石井亮一と石井筆子はキリスト教に影響を受け、滝乃川学園を始めました。その思いをどのように後世に伝えていけるかがチャプレンの大きな使命と感じています。

### 日本聖公会と滝乃川学園

創立者の石井亮一は、立教大学在学中にキリスト教と出会いました。日本聖公会の祖であり、立教大学の創始者であるウイリアムス主教より教えを受け、信徒となり、夫人の筆子も同主教の下で信徒となりました。敬虔な信徒であった夫妻は、学園の中心に教会を建て、日曜日の礼拝のみならず、日課の最初は朝のお祈りで始まり、夕のお祈りで閉じていました。

設立当初から、日本聖公会からの多大なるご支援をいただいております。学園の130年にわたる歴史は、日本聖公会と共にありました。



### チャプレン

チャプレンは、教会以外の学校や病院や社会福祉施設と礼拝堂（チャペル）で働く牧師のことです。滝乃川学園では今年度より、常務理事でもある高瀬祐二が就任しています。

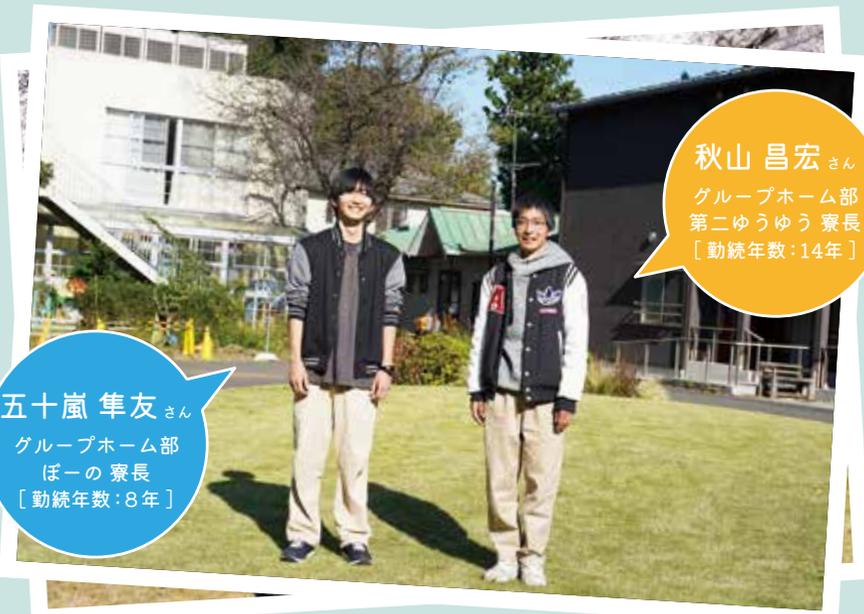


# 滝乃川学園ではたらく

グループホーム部での学び

インタビュー  
by  
国立人

秋山 昌宏 さん  
グループホーム部  
第二ゆうゆう寮長  
[勤続年数：14年]



五十嵐 隼友 さん  
グループホーム部  
ぼーの寮長  
[勤続年数：8年]

スタッフの年齢層も幅広く、働き方も幅広い滝乃川学園。入職するきっかけは様々ですが、10年、20年と続ける人が多いことも特徴です。グループホーム部の先輩・後輩である二人に話を聞くと、続ける理由に「成長」というキーワードがあることが見えてきました。

地域の一軒家やアパートなどで、知的障害を持つ利用者さんたちの共同生活を支えている「滝乃川学園グループホーム部」。仕事内容は、日常生活のお手伝い。

「もともと子ども好きで、保育の短大に行って保育士になりました。2年勤めて転職を考えた時に、短大の実習で知的障害児施設の研修に行ったことを思い出して、同級生が勤めていた滝乃川学園の求人に応募しました」（秋山さん）

「大学では経済・経営を学んでいましたが、就活でいろいろな業界を見て、滝乃川学園に決めました。学園の説明会に同じ大学の卒業生が立っているのを見て、『福祉を学んでなくてもいいんだ』と知れたことが大きな後押しになりました」（五十嵐さん）

滝乃川学園ではたらくきっかけには、十人十色の考えや理由があります。二人に共通していることは、「福祉業界についてほとんど知らなかった」という点。

「自分の中に『人の成長を手助けしたい』という思いがずっとあって。今は利用者さんが地域で独り立ちできるように、生活のいろんな面をサポートしています。例えば、金銭感覚。お金は使った分だけなくなるし、働いた分だけ得られるもので、湧いてくるものではない。だから無駄遣いはいけない。そんなことを試行錯誤しながら伝えたり、人間関係のいざこざがあれば仲介



をしたりもします」（秋山）

「秋山さんのところは軽度の知的障害を持つ方が多いのですが、私が担当するホームには重度から中程度の方が多く、言葉で意思疎通をとれない方もいます。本人の希望を汲み取り、地域のお店や役所の人たちに伝える、私たちがコーディネートのような役割は利用者さんが地域で暮らすためには必要です」（五十嵐）

そんな日々の中で、もっとも嬉しい瞬間は利用者さんの「成長」が見えた時だそう。

「洗濯物をすぐ綺麗に干す方がいて、うまくできたらハイトッチを交わしたりして。彼らにできて自分たちにはできないことが色々あるので、いつも刺激を受けます」（五十嵐）



「当たり前のように流れていく日常も、利用者さんの目線に立つと全く違うことに気づかされる。日々学びの連続です。僕らも利用者さんに育ててもらっているんです」（秋山）

私たちと一緒に働きますか！

支援員・理学療法士・看護師 募集中

詳しくはホームページをご覧ください。  
見学等、随時受け付けています。

(法人本部 総務人事部 042-573-3950)

## ご支援のお願い

日頃より私たち滝乃川学園に温かいお心をお寄せいただき、深く感謝申し上げます。私たち滝乃川学園は、障害を持つ人々がみずからの幸せを希求できる場を創造、提供し、それを支援する有為な人材を育て、学園の発展のみならず、わが国の障害者福祉のさらなる進歩に貢献できるよう、役職員一同、先駆者としての誇りを胸に、努力していく所存です。引き続き、皆様のご指導とあたたかいご支援を宜しくお願い申し上げます。

### ゆうちょ銀行

専用の払込票がございます。必要な方は、お電話またはメールにてお問い合わせください。

### 三井住友銀行

銀行名：三井住友銀行国立支店  
口座番号：普通預金 0921148  
口座名義：社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

### 三菱UFJ銀行

銀行名：三菱UFJ銀行府中支店  
口座番号：普通預金 0002309  
口座名義：社会福祉法人滝乃川学園 理事長 石井慈典

## 130周年記念寄付について

重度の方でもいきいきと活動できる場所を目指し、「新作業棟建設プロジェクト」を企画準備中です。現在、インターネット寄附の導入も検討しております。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

感謝録  
寄附者  
ご紹介

ホームページにて、令和4年7月1日から10月31日までに寄附をいただきました皆様をご紹介させていただきます。



## インフォメーションボード

2022年  
12月

### 滝乃川学園ボランティア募集！

滝乃川学園では、日中活動支援、余暇活動支援、園内環境整備（除草・落ち葉掃きなど学園内の清掃・整備）などのボランティア活動をしてくださるボランティアの方を募集しています。イベントボランティアは、随時ホームページにて情報を掲載していきます。ぜひお気軽にお問い合わせください。

ボランティア担当

【電話】042-573-3950（9時～17時）

### 滝乃川学園ガーデンプロジェクト

学園の中にある500坪ほどの敷地にコミュニティガーデンを作り、内外の人がみんなで協力して、維持管理をしながら、誰もが憩うことができる場所を目指して活動しています。まずは気軽にガーデンの見学にいらしてください。お待ちしております！

【日時】12/11（日）、2023年1/9（月）、2/12（日）、3/11（土） いずれも10時～15時頃（出入り自由）

【場所】聖三一礼拝堂前コミュニティガーデン

【服装】汚れてもよい服装、靴

ガーデンプロジェクト担当 糸永（法人本部）

【電話】042-573-3950（9時～17時）

### Q.ヘルパーになったきっかけは？

滝乃川学園のヘルパーに登録したのは、同じく登録していた知り合いの紹介を受けたことがきっかけです。ヘルパーをはじめてしばらく経ってから、職員の方に勧められて初任者研修とガイドヘルパーを取得しました。（後藤）

カメラ関係のメーカーに38年勤め、退職後には違う分野の仕事がしたいと考えて、退職の一年前から仕事を探しはじめました。その後学校の先輩に紹介されて、休日を利用して身体障害者の介助員を経験し、退職後にヘルパーの仕事を開始。滝乃川学園をはじめ、高校や中学校でも介助員として働いています。（鈴木）

### Q.ヘルパーになってよかったと思うことは？

利用者さんのうれしそうな顔を見た時です。ヘルパーとしてご自宅に伺うと、いつも帰り際に頭を撫でてくれる利用者さんがいるのですが、「今日も一日楽しく過ごしてくれたのだな」と思うと、私も嬉しくなります。（後藤）

「今日、行くところがある」という小さな幸せを感じております。かつ、障害者の支援業務で少しだけ「地元に貢献している」気持ちになれることも、やりがいの一つです。（鈴木）

## 福祉のこれって何？ vol.03

### ヘルパーって何？

お話を  
聞いた人

地域生活支援センター  
アシスタントサービス「色えんびつ」  
登録ヘルパー 後藤香里さん 鈴木進さん

### ヘルパーについて

滝乃川学園の登録制ヘルパーは、自分ができる時や好きな時に、介護の経験や初任者研修・ガイドヘルパーなどの資格を活かして、地域に暮らす利用者さんをサポートします。1日3時間の仕事から、まる1日の仕事もあります。

### Q.お仕事内容は？

ガイドヘルパーとして、利用者さんと一緒にお出かけや、送り迎えなどを行っています。（後藤）

施設から自宅までの移動支援や、買い物代行、掃除、ゴミ捨てなどの生活の支援、外出支援など。職員さんの指導のもと、自分ができることを行っています。例えば外出支援では、一緒に公園や図書館、時には高尾山まで遠出して、ご本人の好きなものを食べたりして過ごします。安全とお財布の管理には徹底して気をつけています。（鈴木）

# 矢川だより

No.129

矢川だより 第129号  
2022年12月発行

発行 社会福祉法人 滝乃川学園  
制作 矢川だより編集会議  
合同会社三画舎



〒186-0015  
東京都国立市矢川三丁目16番地の1  
電話 042-573-3950 (代表)  
メール [soumu@takinogawagakuen.jp](mailto:soumu@takinogawagakuen.jp)  
HP <https://www.takinogawagakuen.jp/>

